

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

《 外国語学部 》

■英語学概論 1 春学期 月曜 5 限

このコースの主な目的は、「英語」とはどのような言葉であるのかを理解することです。つまり、みなさんが中学・高校で学んできた英語という言葉はどのようなものであるのかを客観的に眺めてみることにあります。これは「教養ある英語の話し手」になるためにも重要です。そのために、最低限必要な知識（常識）を学習することになります。content 科目ですが、できる限り学生の活動が中心となるような授業展開を目指したいと思っています。授業では、テキスト『英語についての 23 話』の中から、「英語」を捉えるために重要であると思われる個所を選び、精読することになります。その背景となる情報に関しては授業の中で随時取り上げます。興味のある話題について自分で調べ学習をすることが望ましいと考えています。また、最近では精読の基礎となる文法の知識が不安定な学生が多いことから、文法問題も授業の中で高校英語の復習として取り上げます。

■英語学概論 2 秋学期 火曜 4 限

このコースの主な目的は、「英語」とはどのような言葉であるのかを理解することです。つまり、みなさんが中学・高校で学んできた英語という言葉はどのようなものであるのかを客観的に眺めてみることにあります。これは「教養ある英語の話し手」になるためにも重要です。そのために、最低限必要な知識（常識）を学習することになります。content 科目ですが、できる限り学生の活動が中心となるような授業展開を目指したいと思っています。授業では、テキスト『英語についての 23 話』の中から、「英語」を捉えるために重要であると思われる個所を選び、精読することになります。その背景となる情報に関しては授業の中で随時取り上げます。興味のある話題について自分で調べ学習をすることが望ましいと考えています。また、最近では精読の基礎となる文法の知識が不安定な学生が多いことから、文法問題も授業の中で高校英語の復習として取り上げます。

■応用言語学概論 1 春学期 金曜 3 限

応用言語学は、第二次世界大戦後生まれの大変若い学問です。約 2500 年の歴史を持つと言われる「言語教育学」を 1 つの核として、隣接する様々な学問分野（言語学、心理学、教育学、文化人類学、神経生理学など）との境界領域に常に広がりつつあるため、定義や領域は人によってまちまちです。

本講義では、そのような様々な定義の中でも、最も包括的で中心となる「第 2 言語習得論」と、それを支える方法論を扱うことにします。

具体的には、以下の 8 つの大きな柱を中心に授業を進めていく予定です。1. 第 1 言語習得研究の歴史と概観、2. 第 2 言語習得研究の歴史と概観、3. 第 2 言語習得研究の方法論、4. 学習者言語の研究、5. 第 2 言語習得研究における個人差の問題、6. 第 2 言語教育と習得、7. 学習者言語の語用論的側面、8. 第 2 言語習得研究の将来

本講義は、以上の内容を通して学んだことを言語教育などの関連分野に応用したり、簡単な実験を自分でも企画立案したりできるようになることを、最終目標としています。

評価の方法としては、テストを予定していますが、毎回の授業でも、ただ漫然と講義を聞くだけでなく、グループディスカッションなどで、身近な例を考えてみるなどの積極的な態度を希望します。

■応用言語学概論 2 秋学期 金曜 3 限

応用言語学は、第二次世界大戦後生まれの大変若い学問です。約 2500 年の歴史を持つと言われる「言語教育学」を 1 つの核として、隣接する様々な学問分野（言語学、心理学、教育学、文化人類学、神経生理学など）との境界領域に常に広がりつつあるため、定義や領域は人によってまちまちです。

本講義では、そのような様々な定義の中でも、最も包括的で中心となる「第 2 言語習得論」と、それを支える方法論を扱うことにします。

具体的には、以下の 8 つの大きな柱を中心に授業を進めていく予定です。1. 第 1 言語習得研究の

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

歴史と概観、2. 第2言語習得研究の歴史と概観、3. 第2言語習得研究の方法論、4. 学習者言語の研究、5. 第2言語習得研究における個人差の問題、6. 第2言語教育と習得、7. 学習者言語の語用論的側面、8. 第2言語習得研究の将来

本講義は、以上の内容を通して学んだことを言語教育などの関連分野に応用したり、簡単な実験を自分でも企画立案したりできるようになることを、最終目標としています。

評価の方法としては、テストを予定していますが、毎回の授業でも、ただ漫然と講義を聞くだけでなく、グループディスカッションなどで、身近な例を考えてみるなどの積極的な態度を希望します。

■英米文学概論1 春学期 月曜2限

イギリスとアメリカの詩、小説、劇を読む。小説については20世紀の作家の短編小説を主として選ぶ予定。毎回、取り上げる作品の時代と文化背景についての解説を交えながら、作品を読み進めていく。取り扱う作品とその周辺問題を起点として、文学の主要概念に言及する。

毎回の講義のテーマについては、第1回目の授業時に資料を配付する。

■英米文学概論2 秋学期 月曜2限

イギリス文学の詩、小説、劇の重要な作家を紹介する。毎回、取り上げる作品の時代と文化背景についての解説を交えながら、作品のサンプルを読む。取り扱う作品とその周辺問題を起点として、文学の主要概念に言及する。

毎回の講義のテーマについては、第1回目の授業時に資料を配付する。

■英文法 秋学期 火曜1限

われわれ日本語を使って日常生活を送っていても、その文法を意識することはありません。無意識に正しい表現ができます。しかし、特定の場面でしか使用することのない英語の場合は、英語のことばの規則を知っていると、より正しい英語が話せ、書くことができますし、表現の幅も飛躍的に広がります。

この授業では、英語の基本的なルールを学習し、さらなる英語力アップを目指します。ベースがしっかりしていないと実力の向上は非常に難しいと考えています。

■国際社会と日本 春学期 火曜3限

日本は国際社会において、いわゆる先進工業国として、政府や民間団体が発展途上国に対して、協力援助を提供してきている。

本講義ではそうした状況を踏まえ、まず、国際社会の現状を経済格差を中心に検討する。さらに国際社会のとらえ方として、開発教育の重要性にふれる。

その上で、日本政府による国際協力を、概要、環境、研修、協力隊の4分野で検討する。

その後、民間団体 NGO の活動について、概要・歴史、フェアトレード、原理的考察の分野において、検討する。

さらに、日本社会の「国際化」を検討する。在住外国人の増加の背景として、

日本による国際移住労働者・移民の受け入れと日本社会の労働力に対する需要が上げられる。また、国際社会における日本と開発途上国との格差も関連している。その意味で、日本社会の国際化を検討し、国際移民問題を考える。

具体的には日本の外国人受け入れ、背景、外国人との共生を検討する。

以上のテーマを通じて、国際社会と日本との関係を検証し、私たちができる事を考える。

■英語学講義 春学期 水曜2限

この講義では、現代の言語理論をリードしてきた Noam Chomsky の生成文法 (Generative Grammar) の基本を学ぶこととなります。生成文法とは、人間が言語 (母語) を使う際に用いている (無意識の) 知識を解明しようとする科学的試みです。つまり、私たちは言葉を話し、理解することができますが、そのために様々な知識が必要です。その様々な知識の中で、もっとも重要であると考えられる「文を作り出すシステム (=syntax (統語論))」を探っていくというのが生成文法であるわけです。その生成文法の基本的な考え方を学ぶことがこの講義の目的となります。英語学

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

講義 1 では、生成文法における言語観、母語話者の持つ言語能力を押さえた上で、「統語構造」について学ぶ予定です。なお、授業にメリハリをつけるために、語学スキルの要素を（部分的に）取り込みます。

■英語意味論 春学期 月曜 3 限

この講義では、現代の言語学のうち意味論を取り上げます。まず、意味論の歴史から入り、意味の研究がどのような形で行われてきたかを見ます。その後、現代の意味論の基礎を学び、現在活発に研究されているさまざまな諸問題を論じます。

授業は、諸問題を学生の皆さんと一緒に考えていくという形態を取ります。毎回皆さんの意見を求めますので、単に座っているだけの学生には向きません。でも、「考える」ということを体感してみたい学生はぜひ受講してみてください。

■英語語用論 秋学期 月曜 3 限

この講義では、現代の言語学のうち語用論を取り上げ、そこで活発に研究されているさまざまな諸問題を論じます。語用論は、自然言語そのものを研究対象とし、言語がもつメカニズムを解明しつつあるだけでなく、現在では AI やエキスパートシステムなどにも応用され、その研究の射程を広げつつあります。こう いった背景をもつ語用論の世界から、具体的な問題を言語学の立場から取り上げていく予定です。特に、機械翻訳（ユーザーとコンピュータとの対話を目的としたもの）を行う際に生じる諸問題について学生と共に考えていきたいと思えます。講義内容としては、まず、語用論の理論的基礎を学び、その後、具体的な問題を掘り下げていきます。

授業中は、毎回、学生の意見を求めるので、単に座っているだけの学生には向きません。しかし、逆に、授業というものを楽しんでみたい学生は受講してみてください。

■応用言語学講義 1 春学期 月曜 4 限

ANIMAL COMMUNICATION AND LANGUAGE This class is intended to give students the opportunity to study (and wonder) about language and communication by viewing videos about animals and their communication systems, and then trying to decide whether animals possess anything similar to human language. During each class period students will first watch a video concerning some aspect of animal communication/language (for about 60 minutes), and then write their opinions and thoughts about what they saw on the video (about 30 minutes each class). In this way each class will consist of watching, listening, thinking, and writing. Since the objective of each class is to get students to watch-listen-think-write about language and communication, attendance is mandatory. Students must come to each class on time, and watch-listen-think-write. Grades will be based on attendance and watching-listening-thinking-writing in class, and so there will be no final test.

■応用言語学講義 2 秋学期 月曜 4 限

HUMAN COMMUNICATION AND LANGUAGE This class is intended to give students the opportunity to study (and wonder) about language and communication by viewing videos about different forms of human communication/language systems, and then trying to decide whether these systems are really language or not. During each class period students will first watch a video concerning some aspect of human communication/language (for about 60 minutes), and then write their opinions and thoughts about what they saw on the video (about 30 minutes each class). In this way each class will consist of watching, listening, thinking, and writing. Since the objective of each class is to get students to watch-listen-think-write about language and communication, attendance is mandatory. Students must come to each class on time, and watch-listen-think-write. Grades will be based on attendance and watching-listening-thinking-writing in class, and so there will be no final test.

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■英米文学講義 1 春学期 水曜 1 限

主題：イギリスの演劇

文学を社会的事象として捉え、個人と社会の関係という観点から、ユーモアとペースに溢れたイギリスの演劇を研究する。

春学期においては、イギリスの演劇がギリシャやローマの古典劇をどのように受け継いで成立・発展したか、という問題を追う。

■英米文学講義 2 秋学期 水曜 1 限

主題：イギリスの演劇

文学を社会的事象として捉え、個人と社会の関係という観点から、ユーモアとペースに溢れたイギリスの演劇を研究する。

秋学期においては、ルネッサンスの華シェイクスピア演劇の特徴を解明し、現代劇に至るまでのイギリス演劇の足跡をたどる。

■米国研究 春学期 木曜 3 限

American studies has the purpose of gaining an appreciation and knowledge of the American experience; the distinctiveness of American culture, as developed out of the United States of America. Various disciplines have considered the subject, but whether it be communication studies, linguistics, literature, or sociology, the aim is to highlight elements that reflect Americanness, at levels of society, the individual or both. American worldview and thought; national, regional, and personal identities; immigration and enculturation; ethnic and minority groups; heroes and motifs; concepts and symbols; social scripts and behavior; life course events and rituals; arts and the media; individual beliefs and values are some of the topics that might be explored. Teaching method and language will vary among the course instructors. Instruction will use lecture or readings, singularly or in combination, with task-based exercises to aid comprehension and skill development.

■英語ボキャブラリー 秋学期 木曜 3 限

■SC204 英語の表現 1 春学期 月曜 2 限

The objective of this class is to help students develop their ability to express themselves in English. We will cover many topics, but the main theme of this class will center around music appreciation, and students will be able to practice and improve their English language reading, writing, listening, and speaking skills by listening to and reading and writing and talking about the music they listen to in the class. In the class, we will explore various aspects of music, especially the words to the songs, and the meaning of the words and the stories told by the songs. Activities during class may be individualized, paired, or grouped depending upon the topic being presented. Students are expected to come to every class on time and to participate actively.

■SC205 英語の表現 2 秋学期 月曜 2 限

Students will continue to develop their ability to express themselves in English, and discussions will again involve music appreciation. Students will be able to practice and improve their English language reading, writing, listening, and speaking skills by listening to and reading and writing and talking about the music they listen to in the class. In the class, we will explore various aspects of music, especially the words to the songs, and the meaning of the words and the stories told by the songs. Activities during class may be individualized, paired, or grouped depending upon the topic being presented. Students are expected to come to every class on time and to participate actively.

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■英文読解 春学期 木曜 3限

この科目は英文読解力を高めるためのskill科目であり、同時に、担当者が専門領域の一部を講義するcontent科目でもある。英米の小説を扱った教科書を題材に講義する。skillとcontentのどちらに比重がおかれるか、また、科目の達成目標の詳細については、開講後に担当者から話がある。

■TOEIC英語入門 春学期 月曜 5限

TOEICとは、英語を母語としない人を対象に実施される英語運用能力テストです。国内の企業でもこの試験のスコアを重視するところが多く、職場で必要とされる実践的な英語コミュニケーション能力を計る目的で広く利用されています。実社会で個人の英語運用能力を保証する最もスタンダードな試験になっていると言っても過言ではありません。この授業は、いままでの英語学習で培ってきた成果を踏まえ、語彙力、読み取り能力、リスニングなどの強化を行いながら、このTOEICでのスコア・アップを目的としています。TOEICの出題形式や傾向にそって授業を行います。単に試験のノウハウに終わるのではなく、総合的な英語コミュニケーション能力の向上に結びつけていければと考えています。

■TOEIC英語基礎 秋学期 月曜 5限

TOEICとは、英語を母語としない人を対象に実施される英語運用能力テストです。国内の企業でもこの試験のスコアを重視するところが多く、職場で必要とされる実践的な英語コミュニケーション能力を計る目的で広く利用されています。実社会で個人の英語運用能力を保証する最もスタンダードな試験になっていると言っても過言ではありません。この授業は、いままでの英語学習で培ってきた成果を踏まえ、語彙力、読み取り能力、リスニングなどの強化を行いながら、このTOEICでのスコア・アップを目的としています。TOEICの出題形式や傾向にそって授業を行います。単に試験のノウハウに終わるのではなく、総合的な英語コミュニケーション能力の向上に結びつけていければと考えています。

■SC209時事英語1 春学期 金曜 4限

この科目では、時事的な話題で使用される語彙・表現になれ親しんで、新聞や雑誌などの記事を読めるようになること、ニュースを聞いて理解できるようになることを目指します。世界の情勢、各国の文化事情、あるいは海外からは日本社会にどのような関心が寄せられているのかといった事柄が学習のテーマとなります。英語の学習を通じて現代社会で起こっている様々な事柄に目を向け、関心を持ち、自分の考えをもつよう心がけてください。

■SC210時事英語2 秋学期 金曜 4限

この科目では、時事的な話題で使用される語彙・表現になれ親しんで、新聞や雑誌などの記事を読めるようになること、ニュースを聞いて理解できるようになることを目指します。世界の情勢、各国の文化事情、あるいは海外からは日本社会にどのような関心が寄せられているのかといった事柄が学習のテーマとなります。英語の学習を通じて現代社会で起こっている様々な事柄に目を向け、関心を持ち、自分の考えをもつよう心がけてください。

■SC211Academic1 春学期 金曜 4限

The basic purpose of this course is to improve students' academic skills in English. The course will intensively practice all of the skills necessary to function successfully in an English academic setting: listening, note-taking, summarizing, reading, information gathering, discussion, and the assembling of information and ideas into an academic paper. Students must prepare thoroughly for each class.

■SC212Academic2 秋学期 金曜 4限

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

This is a class in reading and discussion. Some printed materials, adjusted to student levels, will be distributed. Students will prepare discussion questions for each class. Half of the class will be pair work/group work, and half will be discussion as a group. Some essays will be required on topics related to the readings.

■日本語概論 1 春学期 月曜 4 限

この講義では、日本語の諸問題を言語学の立場から、学生と教師が共に考え模索してゆくという方法をとります。したがって、いわゆる「正解」といったものは、この授業では得られません。この講義の目的は、問題解決に至る「試行錯誤」を通して、日本語のおもしろさを体得することにあります。日本語概論 1 では、まず、古代日本語の成立と背景について論じた後、中世の日本語について概観していきます。また、漢字が成立した背景や世界の文字の成立も併せて紹介します。

授業中は、毎回、学生の意見を求めるので、単に座っているだけの学生には向きません。しかし、逆に、授業というものを楽しんでみたい学生、あるいは、考えるというのはどういうことかを体験してみたい学生は受講してみてください。

■日本語概論 2 秋学期 月曜 4 限

この講義では、日本語の諸問題を言語学の立場から、学生と教師が共に考え模索してゆくという方法をとります。したがって、いわゆる「正解」といったものは、この授業では得られません。この講義の目的は、問題解決に至る「試行錯誤」を通して、日本語のおもしろさを体得することにあります。日本語概論 2 では、中世の日本語の音や表現を見ることから始め、現代の日本語の特徴（特に日本語に特有な言語特徴）を分析していきます。また、時間が許せば、日本語の否定表現や様相表現に関する問題についても学生と共に考えてみたいと思います。

授業中は、毎回、学生の意見を求めるので、単に座っているだけの学生には向きません。しかし、逆に、授業というものを楽しんでみたい学生、あるいは、考えるというのはどういうことかを体験してみたい学生は受講してみてください。

■日本語学 1 春学期 月曜 2 限

この講義は、初級レベルの日本語学習者に日本語を教えるための能力を養成することを目的とします。日本語学 1 では、まず、日本語についての歴史的な背景を解説し、また、その概論を行った上で、1. 音声、2. 品詞、3. 格助詞、4. 活用の順序で講義を行っていきます。この講義では学生の積極的な参加が求められます。日本語の教師になる場合、自ら日本語について深く分析する能力がなければならず、したがって、その練習を行う必要があるからです。授業中の発言を重視します。

■日本語学 2 秋学期 月曜 2 限

春学期の「日本語学 1」の続編である。「日本語学 1」に引き続き、外国人に日本語を教えるという立場から見た日本語文法（基礎）を学ぶことになる。日本語文法を規則として暗記し、その知識で教えようとするれば、必ず答えられない多くの質問に出会うことになる。そのためにも、教授者が言語学的な分析能力を養うことが重要である。よって、この授業では、一方通行的な講義形式をとるものではなく、学生の主体的参加によって授業が展開してゆく形式を採りたい。Reading assignment や Homework が重要な役割を果たすので、受講者は積極的に challenge しないと Pass できない。取り扱うテーマは次の3つである。テンス、ボイス、人称

■ことばと論理 春学期 木曜 3 限

「ことば」を研究する分野は「文学」、「歴史」、「哲学」などに較べると、まだまだ馴染みが薄い。言語を実用目的で学ぶ「語学」においては、国際語である英語が優先されるのであろう。しかしながら、言語学的には全ての言語（英語であれ、中国語であれ、何語であっても）は同等と見なさなければならない：たとえば言語 A の使用人口が 10 億人で言語 B が 100 人だとしても、「言語 A と言語 B は異なっている」以上のことは言えない、また言うてはならない。この大原則を踏まえて講義を進めていく。前半は、「ことば（言語）」とはどのような性質を持っているものなのか、

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

「ことば」を分析するにはどのような基準を用いればよいのか、文法はどのような原理に基づいているのか、構造・比較・変種などの概念を中心にその本質に迫りたい。後半では、具体的な言語に焦点を絞り、個々の言語が「ことば」としてどのような原理・論理の上に成り立っているのかを探っていく。日本語・漢字、ポ語・ラ語、デ語・ア語がそれぞれワンセットになっている。

■英米文学入門 秋学期 火曜4限

この科目は「入門」と名付けられており、講義では研究より鑑賞に主眼が置かれることになる。また、英語を読み解く作業よりも、文学テキストの意味や価値を考えることにより多くの時間を割くべきなので、実験的で難解な作家よりは、主題の提示の仕方が素直で文章も平易な作家を選ぶことにしたい。

この講義で扱う素材は短編小説のみとする。長さや英語の難しさには偏りがあるため、一つの作品に費やす時間は一定ではない。初回の講義では補助教材を配布するが、2回目からは指定教材を使う。

文学の講義では何よりも予習が求められる。あらかじめ当該の小説を読んでおかなければ、講義がほとんど理解できない。それでは互いに困るので、予習の助けとして、毎回の講義のあとで次に読む作品の簡単な梗概を伝えることにする。

■日米比較言語文化1 秋学期 水曜2限

日本語と英語の言語文化的比較研究。研究方法は、辞書的意味、語源、類語、言語文化の順です。大変チャレンジングで楽しく深い勉強です。

■日米比較言語文化2 秋学期 金曜4限

As a comparative study of culture, this reading course focuses on the cultural bases of values and thought patterns of people between eastern and western culture. The main study mode will be through the reading of selected texts with illustrated video scenes for viewing. Close reading and analysis will also be made of these related video scenes as a study of natural spoken English and comparative aspects of American and Japanese cultural behavior.

■ヨーロッパの芸術1 春学期 火曜3限

テーマ：ファウスト。悪魔に魂を売り渡し、この世の逸楽を味わい尽くしたあげく、地獄に堕ちた男、ファウスト。彼は「魔術師ファウスト博士」と自称し、黒犬や美女の助手を連れ、魔術や錬金術を売り物にドイツ各地を遍歴した。このファウスト伝説は、ルネサンス期のドイツに実在した人物に由来する。伝説はヨーロッパの様々な作家を刺激し、まずはイギリスの劇作家マーローが『フォースタス博士』（1588）を書き、多くの芸術家が後に続いた。中でも、後世に多大なる影響を与えたのがドイツの詩人ゲーテの戯曲『ファウスト』である。ゲーテがその生涯をかけて書き上げた『ファウスト』がヨーロッパの芸術に与えた影響は大きい。音楽の世界では、グノーの同名のオペラをはじめ、シューベルト、シューマン、リスト、そしてベルリオーズが『ファウスト』に基づく作品を残している。また絵画では、ロマン主義のドラクロアや表現主義のベックマンらが挿絵を描いている。しかしながら、ゲーテの戯曲は伝説の単なる敷衍ではない。主人公ファウストは、悪魔メフィストフェレスと血の契約を結ぶものの、伝説とは異なり、最後に魂は救済され、天上へと引き上げられる。悲劇と題された戯曲は二部からなる。第一部はファウストとグレートヒエンの悲恋を主軸に展開し、第二部においてファウストは時空を超越した神話的世界を遍歴する。伝説の魔術師の生涯は、詩人の手によって、近代的自我がたどるべき、壮大な魂の遍歴に変わっている。とはいえ、遍歴の導師は悪魔である。ここに近代人が直面する「悪」の問題が浮上する。この問題を中心にゲーテの『ファウスト』を読み解いていき、ヨーロッパ芸術の根幹をなす人間観の認識を目標とする。

■ヨーロッパの芸術2 秋学期 火曜3限

テーマ：ファウスト。悪魔に魂を売り渡し、この世の逸楽を味わい尽くしたあげく、地獄に堕ちた男、ファウスト。彼は「魔術師ファウスト博士」と自称し、黒犬や美女の助手を連れ、魔術や錬金術を売り物にドイツ各地を遍歴した。このファウスト伝説は、ルネサンス期のドイツに実在

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

した人物に由来する。伝説はヨーロッパの様々な作家を刺激し、まずはイギリスの劇作家マーローが『フォースタス博士』(1588)を書き、多くの芸術家が後に続いた。中でも、後世に多大なる影響を与えたのがドイツの詩人ゲーテの戯曲『ファウスト』である。ゲーテがその生涯をかけて書き上げた『ファウスト』がヨーロッパの芸術に与えた影響は大きい。音楽の世界では、グノーの同名のオペラをはじめ、シューベルト、シューマン、リスト、そしてベルリオーズが『ファウスト』に基づく作品を残している。また絵画では、ロマン主義のドラクロアや表現主義のベックマンらが挿絵を描いている。しかしながら、ゲーテの戯曲は伝説の単なる敷衍ではない。主人公ファウストは、悪魔メフィストフェレスと血の契約を結ぶものの、伝説とは異なり、最後に魂は救済され、天上へと引き上げられる。悲劇と題された戯曲は二部からなる。第一部はファウストとグレートヘンの悲恋を軸に展開し、第二部においてファウストは時空を超越した神話的世界を遍歴する。伝説の魔術師の生涯は、詩人の手によって、近代的自我がたどるべき、壮大な魂の遍歴に変わっている。とはいえ、遍歴の導師は悪魔である。ここに近代人が直面する「悪」の問題が浮上する。この問題を中心にゲーテの『ファウスト』を読み解いていき、ヨーロッパ芸術の根幹をなす人間観の認識を目標とする。

■ヨーロッパの文学1 春学期 水曜2限

1日に44回も日没が見える、小さな星に住む王子さまが、バラの花と仲たがいで旅にて、おかしな人々の住む6つの星をまわり、地球にやってくる。

サン＝テグジュペリの『星の王子さま』は、1943年の出版以来、世界中で多くの言語に訳され、超ロングセラーとして親しまれてきた。日本でも16種類をこえる翻訳がでており、たくさんの読者を獲得している。作者のアントワーヌ・サン＝テグジュペリは古い貴族の家に生まれ、飛行機の実用化が始まった時代にパイロットとして活躍し、第二次世界大戦のおり、連合軍の偵察飛行士としてコルシカ島の基地から出撃し、消息を絶った。冒険的な飛行など自分の体験をふまえて、人間、自然、文明について深く考えた作品を残した。

この授業では、子どもの本と思われがちな『星の王子さま』をできるだけ詳しく読み、その深い隠された意味を考えていく。

■ヨーロッパの文学2 秋学期 水曜2限

フランスを代表する冒険小説、恋愛小説のひとつ、『赤と黒』を読む。

主人公のジュリアン・ソレルは18歳の少年。女の子にまちがわれるようなかわいい顔、抜群の記憶力、やわらかく傷つきやすい、孤独な心をもつ。プライドが高く、誰にも馬鹿にされないように、いつも、ほんとうの自分を隠している。19世紀の身分社会、超「格差社会」で、地方の材木商の子に生まれ、大きな野心をいただき、「キャリアアップ」をめざして日々たたかう。しかし、究極どこへ行きたいのか、謎をはらむ。

彼が立ちむかった1830年代フランスの、変動する社会、出会った二人の女性、たえずゆれ動くジュリアンの心の内側が、生きいきと描かれている。

授業では、この小説のおもしろさを紹介する。また、二人のヒロインの人物像、ジュリアンと二人の女性の関係のありかたに注目することで、小説で思想を表現するとは、どんなことか考えてみる。

この小説は映画になっている。作品の世界を目で理解するために、ときどきこの映画を鑑賞する。

■ヨーロッパの思想1 春学期 月曜4限

世はコンピューター社会と言われ、その技能が重宝される時代であるが、そうした役に立つ知識は他所で学んでいただくことにして、本講義では、実用性を離れ、かような現代社会成立の背景となった西洋哲学の一端に触れるゆとりの時間を持っていただこうと思う。

西洋哲学と言ってもその領域は実に広大で、そのすべてを網羅することは徒に散漫になるだけである。そこで、その中でもアポリア（難問）と言われてきた定番のテーマに絞って話を進めてゆきたい。まず春学期は「心身問題」を取りあげる。これは「心」と「身体」のあり様、関係を巡る思考である。君たちも目で見、手で触れられる体と、形のない心がどうつながっているのか、不思議に感じたことはないだろうか。古来より現代まで、人間はその不思議についてあれこれと考えてきた。コンピューターというものも、いわば人間の精神活動の具現化された一つのモデル

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

である。そこには当然、心をどう捉えるかという思想が反映されている。この古くて新しい問題を、心身二元論の代表的哲学者デカルトを中心に、古代ギリシア哲学から現代の認知科学まで辿ってゆきたい。その試みは必ずや現代社会の本質を理解する一助となってくれるはずである。

■ヨーロッパの思想2 秋学期 月曜4限

秋学期は「無限」のアポリアについて考える。有限なる存在である人間は、その限られた能力の範囲内で懸命に無限に思いを馳せてきた。広大な宇宙を理解しようとする人間の学究心も、無限を手中に収めようという野心の為せる業であろう。その試みは具体的に神学、哲学、数学の中に展開されてきたが、未だ人間は無限を完全には捉えきれていないもようである。そもそも、有限なる人間が無限なる概念を抱けること自体、一つの謎であろう。本講義ではこの無限を巡る思想の軌跡を古代ギリシア哲学から中世の神学、現代の数学まで辿り直してみようと思う。特に後半は、集合論や数学基礎論の話をするが、それはあくまで哲学的見地からのもので、数式は一切出てこないから安心すること。

哲学は身一つで誰でも始められる。君たちも受け身の姿勢に甘んじているのではなく、これら積年のアポリア（難問）に解答者として挑戦してみてほしい。

■地球環境論1 春学期 金曜3限

我々人類は500万年間長い歴史の中で進化発展を重ねてきた。そして、先進国を中心に優れてた科学技術に支えられたとても機能的な社会システムを作り上げた。その社会システムは我々のあらゆる欲望を満たしてくれる。しかしそのために我々は地球上のあらゆる物を他の生物から取り上げ、人間だけのために資源として利用する地球資源化技術を作り上げ、さらに発展しようとしている。しかし、地球は我々だけの物ではなく、35億年間一緒に進化してきた仲間である他の生物との共有物である。我々は地球上で長い年月を掛けて繰り広げられた進化劇によって作り出されたエネルギーの流れと物質の循環とによって生命を得ている。この原則は他の生物も同じであり、このことを忘れて我々は主人であるかのように振るまい、すべての物を奪い、そして莫大な廃棄物と発熱を環境中に放出して、地球そのものを危なくしている。我々は技術を駆使して公害技術を開発し、局所的な環境悪化の防止に成功したこともあった。しかし、それは我々の社会システムのもつ矛盾を繰り延べにしているにすぎない。そして、将来起こるかもしれない環境破壊の淵をさらに大きくしているように思える。人類は歴史上かつて経験したことのない新たな、そして困難な危機に直面している。人類の活動によって地球環境が急速に変化しつつある。地球環境問題は人類のあり方、人間社会のあり方そのものを問うものだけに、その解決には多くの人々の問題に対する理解と自覚を必要とする。

■地球環境論2 秋学期 金曜3限

現在の地球環境の実状を考え、その解決策を模索する。地球間問題の複雑さは人間の理性を問われているところにある。科学の統合的発展とその成果の社会的、政治的反映がはかられねばならない。人類全体の健全な発展のために、当然と思うありとあらゆる事柄に対して、地球環境と調和するかどうかと言う価値基準で見直しをしなければならない。一人一人が地球人として自覚の元に連帯するならば、あらゆる不合理をなくすることができる。それが実現できたときには現在よりもっと明るい、健全な社会が誕生すると思う。きれいな空気、緑に覆われた野山、豊かな水をたたえた海、そしてその至る所ではぐくまれている数限りない生命、このような地球の素晴らしい自然と調和して生きることこそ、人類にとって最も高度な生き方である。地球環境を認識したことは、人類がそういう生き方に向かって転換し始めたことを意味する。

自然保護の最も進んでいる国、オーストラリアを紹介します。この国は国土の広さと人口の少なさで有名である。200年前に移民によって国が作られ、現在、170カ国の人たちからなる多民族国家である。多くの町は計画的に作られ自然環境の維持に配慮されています。商業地区、居住地区、公園、リザーブと呼ばれる緑地帯、国立公園などバランスよく配慮されています。

■中国史 秋学期 月曜2限

※ 内容が変更になる場合がございます。

※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

「歴史は現在と過去の対話である」。イギリスの歴史学者 E・H・カーの有名な言葉である。我々は、中学・高校の授業で歴史を学んできたが、日本人の歴史認識は、「現在と過去の対話」を可能にするほど深まっているとはいえない。むしろ、歴史問題を考えることに嫌悪感を感じている日本人が増えているようである。翻って中国では、歴史問題に関する関心が高く、周知のように歴史認識問題が昨今の日中間における軋轢の主要な要因になっている。中国側の歴史認識を鵜呑みにする必要はないが、日中関係の将来を考えれば、歴史問題を避けるのではなく歴史和解に向けた対話の習慣をつける努力が欠かせない。本講義では中国における歴史教育の概要と日中の歴史認識の相違を理解すると同時に、歴史和解に向けての課題について、議論をしていく予定である。

■日中比較社会 春学期 水曜1限

主に日中同時アンケート調査の結果（や統計データ）などにに基づき、客観的・科学的方法で、日中の社会、人々の意識・行動様式などを様々な面から比較する。授業においては、参加学生は、アンケート調査の結果（や統計データ）などがどうであるかを推測したり、アンケート調査の実際の結果（や統計データ）を見てそれを分析したり、その分析に基づいて意見を言ったり討論したりする。今の時代における比較をしたいので、使用する資料は基本的にここごく数年のものに限るつもりである

■中国関連就業事情 春学期 月曜3限

現在、中国へ進出している日本企業は23千社以上、そして、現地常駐の日本人は約13万人に及んでいる。短期駐在者も含めれば、20万人以上と言われている。その多くは、現地でのビジネス・進出日系企業の経営などに携わっている。日本と中国の経済面でのつながりは、こうした面からも密接な関係にある。

当講義においては、まず、中国経済の改革開放政策の歩みと、日本企業の中国進出の潮流を解説する。併せ、今後の改革開放政策の動きを展望する。

そして、その基本的な認識のもとに、その潮流の中で、現地日系企業が、どのような課題に直面し、どのように具体的に解決・対応を図っているか、さらには、人事労務問題も含めて、各現地企業の経営者・社員の就業事情も含めて明らかにする。

■中国ビジネス事例研究 春学期 月曜4限

中国は、2001年にWTO（世界貿易機関）に加盟し、13億人巨大市場が世界に全面的に開放されることとなった。そして、その経済規模（GDP）は、日本と肩を並べるまでになり、2010年には、日本を追い越し、米国に次いで第2位の経済大国になり、今後とも引き続き高い経済成長率を維持していくものと予測される。

一方で、日本は、人口減少により、少子高齢化が進展し、需要と労働力が縮小していく傾向にある。そうして状況において、中国巨大市場は、日本にとって一層重要性を増してきている。

以上の視点にもとづき、日本企業は、中国巨大市場に対して、どのようにビジネス展開を進めて行くべきか、具体的にいかなるマーケティング戦略で取り組んで行くべきかを、進出企業の事例にもとづき説明をする。あわせ、東アジア経済の一体化が進展する中での、日本企業の対応についても研究をすすめる。